

や す ら ぎ 通 信

第 26 号 (平成 25 年 1 月 1 日) 発行：大阪府立急性期・総合医療センター

睦月 (初春)

春よ、来い

松任谷由美 作詞 松任谷由美 作曲

淡き光立つ 俄雨 いとし面影の沈丁花
溢るる涙の蕾から ひとつ ひとつ香り始める
それは それは 空を越えて
やがて やがて 迎えに来る
春よ 遠き春よ 瞼閉じればそこに
愛をくれし君の なつかしき声がする
君に預けし 我が心は 今でも返事を待っています
どれほど月日が流れても ずっとずっと待っています
それは それは 明日を越えて
いつか いつか きっと届く
春よ まだ見ぬ春 迷い立ち止まるとき
愛をくれし君の 眼差しが肩を抱く
夢よ 浅き夢よ 私はここにいます
君を想いながら ひとり歩いています
流るる雨のごとく 流るる花のごとく
春よ 遠き春よ 瞼閉じればそこに
愛をくれし君の なつかしき声がする
春よ まだ見ぬ春 迷い立ち止まるとき
夢をくれし君の 眼差しが肩を抱く
春よ 遠き春よ 瞼閉じればそこに
愛をくれし君の なつかしき声がする
春よ まだ見ぬ春……

皆さんあけましておめでとうございます。当「やすらぎ通信」も3回目の初春を迎えることになりました。最初は、「生と死を、今考えるシンポジウム」や「糖尿病予防セミナー」にご応募いただいた皆様との出会いを大切に、これからも何らかの形でそのご縁を「絆」として育んでいけないものかと、この「やすらぎ通信」の発刊を思いつきスタートさせていただきましたが、読者の皆様方からの励ましを支えに、ここまでやってこれることができました。今では、お届けさせていただいている読者の方は、メルマガも含めて、1370人の多数に上っております。

これからも食後のデザート感覚で読んでいただけるニュースレターを目指して、努力を続けてまいりたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

また、その際には、これまでお届けしておりますように、都会のオアシスとして貴重な自然環境を提供してくれている美しい万代池公園の季節の移ろいも織りませ、季節の「色」「匂い」をこのやすらぎ通信を通して感じていただければとも思っております。

さて、1月の季語はたくさんありますが、春を呼ぶ「七種（ななくさ、「七草」とも書く）」について取り上げましょう。「ななくさ」は、春と秋の二つの時期に読まれる季語ですが、「七草」と書くのは本来「秋の七草」で、春の「ななくさ」はもともと旧暦の1月15日に宮中等で厄を払い無病息災を願って「七種（ななくさ）がゆ」を食べられたことに起因するそうで、「七種」という字があてられていました。これは、延喜式という平安時代の中ごろに制定された「格式（ぎやくしき）」の「式」に記録が残っているそうです。

「格式」とは「かくしき」と読んでしまいそうですが、「ぎやくしき」と読むそうです。平安時代の今でいう法律の体系は「律・令・格・式」となっており、「律・令」は今の法律に相当し、「格」はその法律を施行する「施行令」、「式」は「施行規則」みたいなものであったようです。当時の法律の運用は、今と同じように、「律・令」はめったに改正せず、「格」や「式」を時々状況に合わせて改正して運用していたようで、現代社会の法律制度の原型がすでに平安時代には確立していたと言えます。

さて、江戸時代に入り、五節句の行事が江戸幕府の公式行事になるにつれて、この1月15日の「七種がゆ」は、五節句の一つ「人日（じんじつ）」の行事に変化し、人日の節句である1月7日に将軍以下全ての武士が「七種がゆ」を食べ、節句を祝ったとされています。さらにこれが、時代の進行とともに庶民にまで広がり、今の七種がゆの風習が社会全体に形作られました。

七種がゆに用いる野菜は、延喜式の時代には「米、粟、黍（きび）、稗（ひえ）、みの、胡麻、小豆」（みの…えん麦の一種）の7種であったようですが、その後、14世紀頃には、ほぼ今と同じ「芹、なづな、御行（ごぎょう）、はくべら（はこべら）、仏

座（ほとけのざ）、すずな、すずしろ」の7種に定着し、その記述が当時の文献に垣間見られます。

ところで、この春の七種は、どうすれば一番覚えやすいでしょうか。質問されて、すぐに出て来ない経験が、皆さんおありだと思います。これは、和歌を詠むように5・7・5・7・7のリズムで「せりなすな・ごぎょうはこべら・ほとけのざ・すずなすずしろ・春の七草」と覚えるのが一番覚えやすいとされています。

しかし、日本の言葉って、本当にすごいですね。ぴったり「5・7・5」に計算されたように当てはまるのですから、驚きます。

春の七草の話題が出ましたから、秋の七草についてもついでに簡単に触れておきましょう。

秋の七草は春の七草と異なり、食用ではなく、専ら観賞用の草花で、女郎花・尾花（すすき）・ききょう・なでしこ・ふじばかま・くず・はぎの七草で、「お・す・き・な・ふ・く・は」と覚えればいいそうです。

秋の七草の歴史は春の七種よりも古く、8世紀に山上憶良が万葉集の中で

「秋の野に 咲たる花を 指折り（およびをり） かき数ふれば 七種の花」

「萩の花 尾花葛花 撫子の花 女郎花また藤袴 朝顔の花（桔梗のこと）」

と有名な句を残しています。

季節の移ろいととともに、微妙な草花の変化にも心をときめかしながら自然とともに暮らしていた当時の日本人が偲ばれる句と申せましょう。

ところで、私たちにとっての身近な自然、それは万代池公園の自然です。万代池の歴史も古く、聖徳太子の昔から、草花や鳥たちや水生生物を通して、四季のある変化に富んだ美しい風景として人々の心を満たしてきました。未だ土は硬く水は冷たいですが、その下や湖面・水中で植物や鳥・水生生物たちはいつもの冬と変わらず、しっかりとエネルギーを蓄え、確実に訪れる春の到来を待っています。池の廻りを散策するとその鼓動が聞こえそうです。

瞼を閉じて耳を澄ませば、どこからとも漂う沈丁花の甘い香りと、遠くに春の音。さあ、私たちも活動的な春に備え、生き物たちとともに心のエネルギーを蓄えましょう。春は、もうすぐそこに来ています。

喫茶室

人間の嗜好は加齢とともに変わると一般に言われますが、私も音楽に関しては、中島みゆき⇒ジャズ⇒クラシック音楽と好きな音楽は変遷し、今はバッハを中心にしたバロック期の音楽が、最も自分の心にあったというか、癒される音楽として手放せな

いものとなっています。

ところで、ここ3年にわたって「生と死を、今考える」シリーズの企画、プロデュースをさせていただきましたが、その中で、一昨年までの2回では、がんで、死の問題をどう乗り越えるかや死生観をどう確立するかがひとつのテーマになっていました。

相愛大学の釈徹宗先生からは、古来の仏教に根ざす浄土思想が日本の伝統的な死生観になっていたという趣旨のお話もいただきました。

仏教に限らず、宗教的な帰依がその有力な手段になることは間違いないと思いますが、現代社会においては音楽も一つの浄土の世界（キリスト教で言えば天国）に心安らかに旅立つ道具ではないかと最近思うようになってきました。事実、テレビで「五輪まゆみの歌を聴きながら私は逝きたい」と言っていた人がいると聞いたことがあります。好きな音楽と言うのはあらゆる心のバリアを取り除いて心の奥にしみわたり、心の奥底にある死への恐怖や不安を取り除いて平坦なやすらいだ気持ちにさせてくれる効果がありそうです。

「眠れない中高年のための深夜番組」として20数年にわたり多くの中高年の深夜便リスナーを集めている「NHKラジオ深夜便」も、「ロマンチックコンサート」と「にっぽんの歌こころの歌」といったコーナーを午前2時台から3時台に設け、クラシックや懐かしいジャズ、ポップスなどの洋楽や歌謡曲・演歌を放送するコーナーを設け、永年愛聴されているのも、その時間に「眠れない」中高年がいかに多くいるかの反映でもあります。

ラジオ深夜便の案内役のアナウンサーの声は、ゆっくりと包み込むような雰囲気番組は進んでいきます。決して番組の始まる11時20分頃から終了する朝5時までずっと聴きつづける番組ではなく、ふっと目が覚め、再び寝ようにも寝つけぬ時に、その時間帯の放送を聴くという聴き方で多くのリスナーを引きつけています。そんな時、ラジオから流れてくる懐かしいメロディー、優しいメロディーは、高まった神経を鎮め、心の平安を通じ、再び夢の世界に戻してくれます。

音楽を実際に心の治療などに使おうと言うのが「音楽セラピー」というそうですが、私どもの連携している相愛大学にも、音楽セラピストを養成する学科が音楽学部のなかにあります。しかし、専門的なセラピストのお世話にならなくても、単に好きな音楽を聴くだけでもその効果はありそうです。

以前、ノーベル賞を取られた小柴昌俊博士は、「モーツァルトがとても好きだ。研究や諸々の疲れはモーツァルトを聴くことにより和らげることができる。モーツァルトの音楽は人類が生み出した最高の知的生産物。」とテレビでおっしゃっていましたが、こういった点で、私も、モーツァルトやバッハなどのバロック音楽は超お勧めで

す。

「五輪まゆみを聴きながら逝きたい」とTV番組の中でおっしゃった人と同じく、この私も実は、「密かにバッハの宗教音楽、多くのカンタータやコラール、受難曲などを聴きながら…」とと思っている一人です。前に、申し上げましたが、私は、バイブルを読み、クリスチャンのミSSIONナリーに英語を習っていますが、別にクリスチャンでも何でもなく、先祖代々の仏教徒です。しかし、そのこととは無関係に、バッハなどの宗教音楽には何故か限りないやすらぎを覚え、聴いているうちに心が平らになり、いつの間にか深い眠りに入るという効果を、夜ごとにいただいています。

さて、今回のテーマに入りたいと思います。昨年10月のはじめ頃、いつものようにラジオ深夜便「明日へのことば」を聴いていると、その日と翌日は、高橋エミさんという日本人の黒人系シンガーがゲストスピーカーで出演し、「映画『キクとイサム』と私の歩んだ道」というテーマで語っておられました。実は、私自身高橋エミさんのことは全く知らず、また映画「キクとイサム」も全く知りませんでした。番組を聴き始めると、この映画が、戦後進駐軍の一員として日本にやってきた黒人アメリカ兵と日本女性との間で生まれた「混血児」（今は「ハーフ」とか呼ばれますが、当時は差別的なニュアンスを含めて「混血児」「混血」と呼ばれていました。）にまつわる差別問題を描いた社会派の巨匠、今井正監督の代表作と聞き、興味を持って放送に聴き入りました。

事実この作品は、制作された1959年（昭和34年）のキネマ旬報ベストテンの第1位に輝いたほか、第14回毎日映画コンクール日本映画賞、第10回ブルーリボン賞ベストテン1位、NHKベストテン1位、芸術祭賞文部大臣賞など、あらゆる賞を総なめした作品でした。

また、昨年は、今井正監督が生まれて丁度100年目に当たるようで、日本各地で今井正監督の作品の上映会が開かれ、この映画の上映会も高橋エミさん（映画出演当時は「高橋恵美子」）の出演のもと各地で開かれました。

高橋さんは、映画の出演当時からそうでしたが、体格のとても立派な方で、その声量からゴスペル歌手かなと思わせますが、映画出演後吉田正に入門し、29才のときに歌謡曲・演歌の歌手としてデビューし、今は歌謡曲、演歌を中心にジャズやシャンソンなども歌いこなすオールマイティーのエンターテイナーとしてステージをこなしておられます。

この「キクとイサム」が撮られた年は1959年（昭和34年）で、まだ終戦から14年目、サンフランシスコ講和条約締結で日本が独立を取り戻してからまだ8年、あの日米安保条約の改定で国論が二分される大闘争があった前年と言う時代に位置し、日本の高度成長が始まる池田内閣誕生の4年前という時でした。経済は朝鮮戦争の特需

を期に戦前の水準を取り戻してはいましたが、戦争の傷跡は人々の生活や心にまだまだ残っており、一部のお金持ちはいたものの、日本人全体が貧しく、特にこの映画の舞台となった東北(福島)の山村は当時の日本の貧しさを象徴するような地域でした。

映画は、そのような貧しい東北の山村を舞台に展開します。簡単にあらすじを再現してみましょう。

東北の貧しい山村で年老いた祖母(しげ子婆さん、北林谷栄)と暮らす、11才のキク(高橋恵美子)と9才の弟のイサム(奥の山ジョージ)。二人は、終戦後、日本に進駐軍としてやって来た黒人アメリカ兵と日本人の母親との間で生まれた姉弟で、父親は任務終了とともにアメリカに帰り、その後母親は間もなく肺の病で死亡。残された二人は、東北の山村で一人百姓をしながら暮らす年老いた祖母に引き取られ、育てられる。暮らしは、貧乏のどん底で、祖母は小さな畑で作る桑の葉を売って生計を立てているが、腰痛の持病があるにもかかわらず、桑の葉を全部売っても日銭が350円にしかない身ではお医者さんに診てもらうこともままならず、どうにか二人の孫とともに三度のご飯だけは辛うじて食べれるという暮らしをしていた。

キクは頭の毛が縮れ、顔が黒く、体もお尻も大きいことから、学校の仲間からいじめられ、嘲笑される。弟のイサムは色が黒いが、体はそんなに大きくなく、何よりもキクが守ってやっていることから、あまりいじめ対象にはならない。

しかし、この映画が貧しい農村を舞台にして、黒人系「混血児」に対する厳しいイジメや差別を描いているという重いテーマにも関わらず、暗く沈んだ映画となっていないのは、この主人公のキクとイサムをすごく明るく、たくましいキャラクターとして今井監督が描いているところによる。(これは、後で述べるキャスティングの成功と脚本の良さも大きく貢献しています。)キクは、いじめられても大きな体とたくましい気力でいじめっ子にケンカを挑み負けない。また、イサムもとてもひょうきんで明るくすくすくと育っている。

しかし、年老いて残り少ないと感じる祖母に、ある時、村の診療所の院長が「しげさん、あんたもいつまでもこのままというようにはいくまい、その年では。しかも何かと育てるのが難しい子どもを二人も抱えている。この際、アメリカに養子に手放すということを考えたらどうか。アメリカの子どものいない家庭では、子どもを欲しがっていると聞く。その方が、あの子たちも幸せに暮らせると思うよ。そういうことを斡旋する人がいると聞くから、しげさんさえよけりゃ、頼んでみようか。」と切り出しました。当時の現実社会でも、実際にそのようなことが行われていたのでしょう。

数日経ったある日のこと、仲間と一緒に遊んでいたキクとイサムの前に、見知らぬ男性がカメラを手にやって来ます。写真を撮ってあげるという訳です。何事にもおおらかなイサムは、その男に促され写真撮影に応じますが、胡散臭く感じたキクは応じ

ません。その夜、キクとイサムは祖母から「アメリカに行かないか。お金持ちの家に養子に行けば今よりもずっとずっといい生活ができると聞く。」と言って二人に話を持ちかけます。しかし、キクは激しく反発しますが、イサムは黙って聞いています。

その後、映画のシーンは駅のプラットフォームに変わります。結局ひょうきんで何事も深く考えないイサムは、アメリカに養子に行くことになり、キクや祖母や院長などの見送りを受けます。みんなに見送られ、列車が動きだしたとたん、イサムは「行きたくないよ。アメリカなんか。行きたくない。」と列車から飛び降りようとするが、迎えに来た男に制止され、結局アメリカに旅立って行きます。イサムも決して心から望んでアメリカに行くことを選んだ訳ではなかったのです。

イサムがいなくなって、キクは祖母と二人だけの生活を始めますが、キクは学校でのいじめが嫌になり、学校を休み始めます。担任の先生に学校に来るよう注意をされますが、行く気になれません。そんな時、近所のおばさんから子守を頼まれますが、村に興業にやってきている旅役者の座長らに呼ばれ、酒を飲まされ、赤ん坊を背負いながら目の前で「お富さん」を歌ったり、タップダンスを踊るように言われ、赤ん坊のことを半ば忘れ、キクは応じます。しかし、酒の肴にされていることにだんだん気づき、突然そんなことをしている自分に嫌気がさし、赤ん坊を抱きながら村の通りに。すると学校から丁度帰ってきたいじめっ子たちと出くわし、また、いじめやさげすみの言葉を吐きかけられます。キクは激昂し、赤ん坊をたまたま停まっていた野菜を集荷にきていたトラックの荷台において、いじめっ子の集団を追いかけ取っ組み合いを始めます。キクは赤ん坊のことをすっかり忘れてしまっていたのです。

キクがいじめっ子たちを相手にケンカをしている最中に、トラックの運転手が戻ってきて、赤ん坊が荷台に乗っているのも知らず、走り出してしまったのです。

赤ん坊がいなくなったことが分かり、村の駐在所の巡査も入り大騒動となります。キクは、赤ん坊をどこにやったか追及されますが、記憶がありません。また、酒を飲んでいたことも分かり、村のみんなのキクへの怒りが集中します。祖母は土下座をして謝りますが、「あんたが謝っても赤ん坊は帰って来ない」と祖母も激しくつるし上げられます。一方、当のキクは一生懸命思い出そうとするため、一向に謝る気配がありません。そのため、余計にみんなのキクに対する怒りが増すばかりです。

やっと冷静を取り戻したキクは、ようやく、トラックに赤ん坊を置いたことを思い出し、そこに通りがかったバイクをひったくって、「赤ん坊を取り返しに行ってくる」と言って、赤ん坊を取戻しに行きます。実は、そのバイクは新品のバイクで、その持ち主の家の子どもが以前親に内緒で持って来たのをキクが乗り回して練習していたので、バイクで飛ばすのはお手のものでした。

赤ん坊はこうして戻ってきますが、村人たちのキクへの怒りは簡単には収まりませ

ん。村の駐在も「署に顛末を報告しないといけない。これだけのことをしたからにはただではすまないぞ」とキクを責めます。それに輪をかけるように、その話を聞きつけた新聞記者が夜、家に押しかけてきてキクの写真を撮ろうとします。新聞に写真を載せると言うわけです。祖母は、「写真を撮るのだけはやめてくれ。どうしても撮るといならオラを撮れ」と必死で抵抗します。

このような騒動があつてから、キクの将来を心配した祖母は、その夜「お前は、やっぱり尼寺さ行け。オレが頼んでやるから。尼さなったら三度の飯だけは食えるやろう。」とキクを説得します。

その真夜中のことです。隣で寝ているキクがいないことに気づいた祖母は不審に思いキクを探しに行こうとすると、土間の方でドシンという音が。祖母が、そっと様子を見に行くと梁から途中でちぎれたわら綱が垂れ下がっていて、その下にキクがうなだれて座り込んでいます。首つり自殺を図ったもののキクの体重が重くて、わら綱が切れて命が助かったのです。それを見た祖母は、「キク、お前がそんなに尼になるのが嫌やったらならんでええ。お前も一人前の大人になったのやから（キクには初潮が訪れていた）、オラといっしょに百姓になるか。今日から百姓になるんやったら鍬かっいでオラの後についてこい。」と百姓になることを提案すると、キクは嬉しそうに「うん」とうなずきます。

朝になって、キクは百姓の格好をして鍬を背負い、祖母のあとについて畑に向かって歩き始めます。すると、いつものいじめっ子たちがやってきてまた、キクをいびり始めます。しかし、今朝のキクはいつものキクではありません。繰り返される彼らの挑発の言葉にも、キクは悠然と構えて、代わりに彼らに向かいにっと笑いをふりかけます。「ワシャ大人になったんじゃ。これから百姓の仕事に行かないといけないからお前らみたいな子どもの相手はしてられんのんじゃ。」と優越感にひたった顔つきと態度で、堂々と祖母の後を再び歩き始め、この映画はジ・エンドとなるのです。

この映画の脚本は、当時小津安二郎、溝口健二、黒沢明と並び4大巨匠と言われた成瀬巳喜男の作品の脚本などを多くてがけていた水木洋子が書いています。水木洋子は、多くの文芸作品の脚本を手がけた当時の超売れっ子脚本家で、今井正監督では、「キクとイサム」、「ひめゆりの塔」、「また会うまで」「純愛物語」などを、成瀬巳喜男監督では「浮雲」「あにいもうと」などを手がけ、市川崑監督の「おとうと」を、またテレビでは1968年のNHK大河ドラマ「竜馬がゆく」などを手がけました。

高橋エミさんは、深夜便のなかで、このキク役の俳優のオーディションに受かったのはこの「水木洋子先生のおかげ」と語っています。高橋さんのお話しでは、オーディションには6～7人位の子どもが参加し、映画プロデューサーの市川喜一さんと今

井正監督が選好に当たったそうです。今井監督は「頭がよく、まとまった子」を選びたかったらしく、最初は既に別の子に一旦決まっただけです。ところが、脚本を担当した水木洋子は、この役は「存在感のあるたくましい子でなければダメだ」と高橋さんを推して一歩も引かなかったそうです。その結果、カメラテストをして決めようということになり、カメラに映してみた結果、今井監督が「水木さんには負けたよ。カメラ映りは水木さんの推した子が断然だった。」と脱帽し、高橋さんの起用が決まったというエピソードを高橋さんは語っておられます。

高橋さん自身、やはりこのキクと同じく戦後進駐してきた黒人アメリカ兵と日本人の母親との間に生まれ、「父親は自分が生まれる前に、母親とお腹の中の私を残し、除隊になってアメリカに帰ってしまった、また、母親は私を産んだ後どこかに行ってしまった。だから祖母に育てられた」と深夜便の中でおっしゃっていました。多分、当時、応募してきた残りの子どもたちもまた、同じ境遇だったのではないのでしょうか。また、このとき、弟の「イサム」役のオーディションも行われ、こちらは奥の山ジョージ(藤原喜久男)さんが合格しました。奥の山ジョージさんは、藤原喜久男として、田端義継(田端義夫の長男)とマミーズ、原信夫とシャープアンドフラッツなどのボーカルとして、また、ピート・マック・ジュニアという名前でルパン三世のテーマをリリースして活躍しました。

高橋さんは、映画の撮影に際しては今井監督からは、とてもやさしく丁寧に演技指導をもらったとおっしゃっていますが、撮影は決して順調ではなかったとおっしゃっています。それは、「映画の内容やストーリーが、毎日実生活の中で、いじめや差別されていることを、また映画の撮影でも再現されるわけで。撮影は嫌だった。だから、全く撮影に身が入らなかったのです。これはジョージ君とて同じ思いだったと思います。今井先生はもうほとんど匙を投げかけていましたね。それを、水木洋子さんが、見かねてやってきて、私たちが泊っている旅館にきて下さって『あなたたちが本当に嫌なら、もうやめてもいいんだよ』と泣いて話をされました。これがあつたので、ジョージ君ともう1回話し合ったのです。『わざわざおばさんがやって来てああ言われたら、やらないとしようがないと思うんだ、ジョージ君はどう思う?』と言ったら、ジョージ君も『自分もそう思う』と言ったのね。それで、気持ちを切り替えてジョージ君と二人で頑張り出したの。』とおっしゃっていました。

高橋さんは、番組の中で水木洋子さんのことを「おふくろさん」と呼んでいました。二人の濃密な関係はこれを機に始まり、水木洋子さんが亡くなる(2003年)まで続いたようです。

この映画は、当時まだ社会全体に人権意識が今日ほど育っていなかった時代で、また、当事者の苦しみや権利をアドヴァケイト(当事者に代わって主張)する機能が社

会の中で十分根付いていなかった時代にあつて、「キクとイサム」は当時としては異例の「混血の」子どもの人権を正面に据えた映画でした。

しかし、そこには単なる人権の啓発映画的なものでなく、キクに差別やいじめに負けない非常に明るくたくましいキャラクターを持たせ、また、とても貧しいなかで二人の孫を自ら養育しなければならない運命となった祖母しげ子婆さんを演じた北林谷栄の好演もあり、文芸作品としても抒情味とヒューマニズム溢れる名作品に仕上がっています。当時のキネマ旬報ベストテン第一位に輝き、今井正監督の代表作と呼ぶにふさわしい作品となりました。

私は、この映画が初演されたときはまだ、小学生。当然この映画は当時は見ていません。深夜便で初めてこの映画を知り、大手レンタルビデオ店を探し回り、やっと大阪市内の大きな2店舗に在庫があることを確認し、そこで借りることができ、この素晴らしい映画を見ることができました。一般にレンタルビデオ店に行っても、小津安二郎監督や黒澤明監督の作品の在庫はよく見かけますが、今井正監督や溝口健二監督の作品にお目にかかるのは不可能に近いと言えます。それは、これらの監督の作品に対する顧客の需要があまりないということかも知れません。しかし、フランスのパリに行けば溝口監督の映画が高く評価され未だ上映されているのに、おひざ元の日本では見ることができないというのは、日本の映画文化史からみてとても嘆かわしいことになります。また、今井正監督は、社会派の巨匠ですが、かつて「橋のない川第2部」をめぐって様々な難しい問題が起こったこともあり、営利会社であるレンタル会社があえて取り扱うことを避けているのかとも思いました。

しかし、今回の「キクとイサム」の作品を探す中で、「橋のない川第2部」も含めて、今井作品や溝口作品など戦後の映画史を語る上で不可欠な作品を、一部の大規模店やネットレンタルという限られた空間ではありますが、民間のレンタル会社が在庫として置き、貸し出しをしていることが確認できたことは、映画の文化史の観点から大変意を強くすることができました。

戦後の歴史を形作ってきた、これらの監督の作品の数々は、日本の映画文化そのものであり、それらの作品の流れの上に現代の映像文化が成り立っている以上、それらをきちんと史料として保管し、人々の文化的な欲求に応じて貸し出すアーカイブ機能の存在が、文化の発展には不可欠と思うからです。こういう機能はフランス、イギリス、アメリカなど欧米の先進的な文化国家にいけば当たり前のことで、公的なセクターがその機能を担っています。しかし、日本では全く未整備とっていい状態です。

現在、私企業も大きくなるにつれ、単なる利益追求だけでなく社会貢献ということがその企業の発展には不可欠と認識され、様々な営利企業が営利を離れて自然環境の保全など社会貢献活動に力を入れ始めていますが、こうしたレンタルビデオ業界など、

常にユーザーの傍にいて過去の映像の貸し出すことを事業としてやっている企業こそ、是非そういう使命感を持って、そのアーカイブ機能を充実していただければと思います。

また、最近「“貧乏”と“貧困”とは違う」とよく言われますが、そのこともこの映画を通じ強く感じました。この「キクとイサム」が撮られた時代は、高度成長期が始まる前で、戦争の記憶が未だ人々の記憶に生々しく残り、GHQによる戦後の経済改革の余韻も残り、朝鮮戦争の特需で戦前の工業生産水準を回復したものの、庶民の生活にはまだまだその余禄が回ってくるという状況にはありませんでした。まだまだ日本人全体が貧乏な時代でした。しかし、全体が貧乏であったことから今のような格差は生まれず、社会や家族の横の絆がとても強かった時代でした。みんな家や地域という単位で体と心を寄せ合って生活をしていました。そして、いつか未来には「もっとよい生活が待っている」という共通の確信めいた社会意識が形成されていた時代だったと思います。

キクもイサムもとても貧乏であるのに、非常に明るく伸び伸びと祖母とともに暮らしている映画の中の情景は、そのような当時の社会意識の反映でもあったように思われます。

しかし、他方、今日の私たちが直面している状況は、派遣労働と派遣切り、パートタイム労働の一般化と潜在的な若者の失業状況、小さいパイをめぐる激しい競争の中で、社会のセーフティネットとして機能していた、家族・地域の横の絆を中心にした血縁・地縁関係は崩壊してしまいました。まさしく横の絆なき物質的、精神的貧困とでもいうべきものであり、これはキクとイサムの時代の貧乏とは全く異質なものであると申せましょう。

いずれこのまま社会が進めば、日本人が長い歴史のなかで築いてきた日本人としての素晴らしさ、外国人から見れば「治安がよくて、まちが綺麗で、日本人の心はマイルドで、礼儀正しい」などという日本と日本人の素晴らしさが消えてなくなってしまうのではないかと危惧を感じています。そうならないためにも、もう一度自分の足元から、社会のあり方を見つめ直し、今の日本人が忘れかけている日本人が本来持っていた価値観を取り戻す努力をしていくことが大切ではないかと思いますが、皆さまがたいかがでしょうか。

最後に、高橋エミさんが、放送の終わりに言われた言葉、すごい含蓄のあることばだと思いますので、それを最後に記して今回の少し長い「喫茶室」の話題を終えたいと思います。「私たちが死なないと、やっぱり本当の意味での昭和というのは終わらないのかなと思いますね。第二次世界大戦というものがなければ、私たちは生まれなかったのですから。」（高橋エミ、ラジオ深夜便）



医師、薬剤師 看護師、栄養士、臨床検査技師、診療放射線技師など、将来医療の分野で働きたいと志す高校1～2年生の皆さんを対象に、実際の医療業務を模擬体験していただく、「第2回ふれあい病院探検隊」の参加者を公募させていただきましたところ、昨年を大幅に上回る777人（私立56校、公立65校、国立2校の合計123校）の高校生の皆さんが応募してくれました。

将来の職業として医療の分野を選択したい意欲を持つ若者がとても多くいることに、私たちも大変心強く思っております。

今年は、参加できる企画もより充実し、参加者枠も相当増やしましたので、ご参加いただく皆さんのメニュー選択の幅も増え、また事前申し込みしなくても参加できるフリー参加のコーナーも充実しましたので、今月13日(日)の当日は、当センターは多くの高校生であふれかえり、一日中様々な体験に真剣な表情で取り組む彼らの熱気につつまれるものと、楽しみにしております。

このイベントには、昨年に引きつづき、連携大学である相愛大学、森ノ宮医療大学、大阪府立大学から、100人を超える学生さんがボランティアとしてお手伝いをいただきます。また、これら3大学の関連学部からも様々な楽しい学びの機会となるブースを、工夫を凝らし出展いただくことになっており、3大学の教員や関係者の皆さまには心からお礼を申し上げます。

NEWS

【(継) 小児消化器病・肝臓病のお子様の健やかな成長を支援しますー小児科】

当センター小児科では、消化器病・肝臓病の治療に積極的に取り組んでいます。特に炎症性腸炎疾患（IBD）・ウイルス肝炎については「小児消化器チーム」として専門診療を行っています。炎症性腸疾患は原因不明の慢性疾患であり、最近我が国の子どもでも増加しています。当小児科ではステロイド静注療法やステロイドパルス療法に加えて、白血球除去療法、免疫抑制療法（イムラン、タクロリムス）を取り入れた治療を行っています。治療の進歩によって入院回数と日数は大幅に減少し、初回の寛解導入の期間を除けば、おもに外来治療で寛解を維持できております。このことにより患者さんの日常生活や学校生活も大きく改善しております。とくに今年から難治性あるいは重症の潰瘍性大腸炎・クローン病のお子様を対象に、インフリキシマブ（商品名：レミケード）の治療を開始しました。従来の治療では良くならない炎症性腸疾患

(IBD) のお子様でも劇的に良くなる方を経験しております。レミケードの治験の実際については、小児科主任部長などに遠慮なくお問い合わせください。

肝臓病ではウイルス肝炎 (B 型、C 型)、自己免疫性肝炎、脂肪肝、脂肪肝炎、硬化性胆管炎、糖原病、ウイルソン病、原因不明の肝疾患などの診療を行っております。

とくに B 型肝炎および C 型肝炎のインターフェロン治療 (注射薬)、核酸アナログ治療 (経口薬) に積極的に取り組んでいます。治療の進歩によって B 型肝炎、C 型肝炎ともほとんどのお子様において肝炎が良くなっております。

治療に難渋されている潰瘍性大腸炎・クローン病などの消化器病およびウイルス肝炎などの肝臓病に関してはどうぞお気軽にご相談下さい。

小児科 主任部長 田尻仁

【(継)臨床研究の新たな発展をめざし—臨床研究部を設置しました】

当センターでは、新たな医薬品、医療機器、治療方法などの開発を行うための臨床研究をこれまで以上に推進するため、このたび、新たに院長直属の「臨床研究部」を設置し、11 の研究部門、1 の臨床研究室(実験)でスタートしました。臨床研究部は、来年 4 月には「臨床研究センター」に発展させる予定です。各研究部門の概要は以下の通りです。

第 1 研究部門 (がん)、第 2 研究部門 (腎・心・血管・肺)、第 3 研究部門 (代謝・消化器)、第 4 研究部門 (精神・脳・神経・麻酔)、第 5 研究部門 (免疫・アレルギー・移植・感染)、第 6 研究部門 (救急・小児・周産期)、第 7 研究部門 (運動器)、第 8 研究部門 (生体画像・検査医学)、第 9 研究部門 (薬学)、第 10 研究部門 (看護学)、第 11 研究部門 (医療疫学、医療情報)、臨床研究室(実験)

【(継)先月から PET-CT によるがん検診を開始しました—画像診断科】

—低被ばく・短時間撮像で高画質。快適な検査環境と高い診断精度で

皆様方にご満足いただけることと確信しております。—

PET-CT 検査につきましては、これまでは、がんが見つかった患者さん、がんの疑いのある患者さんを対象として、精査のための検査を行って参りましたが、昨年、11 月 1 日から、地域の医療機関からのご紹介を条件に、がんの疑いのある患者さんだけでなく、広くがん検診を目的とした検査も実施しています。

当センターの PET-CT 装置は、国内で 5 台目の TOF (Time-of-Flight) 技術を用いた世界最高水準のもので、ノイズの少ないクリアで高品質な画像を得ることができます。

一度に全身 (頭部から大腿部) の FDG-PET がん検診と CT 検診を受診できます。診断は全て放射線診断専門医・PET 診断認定医が行います。

検査室のインテリアや照明は、落ち着いたくつろいだ雰囲気の中で安心して検査を受けていただけるよう工夫をこらしております。

検診のご利用料金は、98,000 円(税込)です。是非、皆さんの健康管理にご活用下さい。

また、引き続きがんが見つかった患者さん、がんが疑われる患者さんの地域の医療機関からの撮影依頼も受け付けておりますので、こちらの方も積極的にご活用下さい。

お問い合わせは画像診断科 RI (核医学)・PET 検査室まで。

【(継) 進む！放射線治療装置を活用したがんの低侵襲治療—放射線治療科—】

当センターの放射線治療装置を一新して2年目に入っております。この期間に脳・肺・肝に対する定位照射、前立腺 IMRT (強度変調放射線治療) を順次開始し、昨年4月からは頭頸部腫瘍に対する IMRT も開始しました。画像誘導技術を用いた低侵襲治療が可能で、脳定位照射などいずれも外来通院で治療は完結できます。

現在では高精度治療は初診から数週間程度で、待機可能な前立腺癌に対する IMRT でも3ヶ月待ち程度で受けて頂くことが可能となっています。

また、小線源治療(高線量率遠隔治療および前立腺癌に対する低線量率ヨード線源永久挿入療法)も行っています。

放射線治療装置を用いたがん低侵襲治療に関しては、お気軽にご相談ください。

放射線治療科 部長 島本 茂利まで

【(継)前立腺がんの手術—内視鏡手術支援ロボット“ダ・ヴィンチ”による

手術を他施設に先駆けて本格実施中！】

泌尿器科領域における手術の多くは腹腔鏡手術となってきています。副腎から始まり腎摘除術、腎がんの根治手術に適応され、現在は前立腺がんの手術にも多くの施設で腹腔鏡手術が主流となってきています。

当科では2009年から腹腔鏡下前立腺全摘術を開始し、2010年に施設認定を取得し2011年は69例の前立腺がん手術のうち36例に腹腔鏡手術を施行しました。腹腔鏡下手術は内視鏡で観察しながら行う手術の事で、お腹に大きな創を作ることなく、小さな穴を5~6箇所開けて直径5~12mmのトロカーと呼ばれる筒状の器具を通して行う、体に負担が少なくてすむ手術です。内視鏡で観察しながら行いますので、肉眼よりは拡大視野で行うためにより、細かい手術が可能となっています。尿失禁に関係する尿道括約筋や勃起神経の温存が可能です。開腹手術に比較して出血量も極めて少なくなっています。傷の治りが早く術後の痛みが少ないため術後回復が早いことが特徴で、入院期間は10日から2週間ぐらいの期間です。

今年の診療報酬改定に伴い医療用ロボットを使った手術が保険で行うことが可能となったため、当センターでは府内の他施設に先駆けて、手術支援ロボット「da Vinci S」(ダ・ヴィンチ)を導入・活用し、前立腺がんの内視鏡手術を行っています。

このダ・ヴィンチによる手術の特徴は術者が拡大された3次元の画像を見ながら手術操作を行うところにあります。手術操作鉗子の先は手首や指の関節のようになめらかに動き、手以上の可動域を持っており、より細かな手術操作が可能となり、狭い骨盤の底で尿道と膀胱をつなぎ合わせる前立腺がんの手術には最適の医療技術です。前立腺はクルミ大の大きさで周囲は膀胱、直腸があり、周囲には血管や勃起に関係する神経や尿道括約筋が存在します。拡大された3次元の画像を見ながら、術者の手の動きは縮小され、手ぶれも補正されて行われるため正確な手術が施行可能です。特に尿道と膀胱の吻合はダ・ヴィンチならではの有用性が活かされます。したがって、がんの根治性の向上はもとより、勃起機能不全や尿失禁などの合併症の軽減も期待できます。

【(継) 「医療相談」コールセンターのご利用を一地域医療連携室】

患者さんやご家族などからの医療や病院利用に関するご相談を、専門の看護師が電話でご相談に応じさせていただく「医療相談」コールセンターを開設運用しております。是非お気軽にご利用ください。

電話番号は	06-6692-2800	(専用電話回線)
新たに開設!	06-6692-2801	(専用電話回線)
相談日時	月曜日～金曜日	午前9時～午後5時
相談対象	医療相談を希望されるご本人若しくはご家族等	
相談員	看護師	

【(継) 診察予約変更センター

11 診療科において診察の予約日・時間の変更を電話で受け付けています!

当センターでは、下記の11診療科を対象に、電話で診察時間の予約の変更ができるよう「診察予約変更センター」を設置しています。是非、積極的にご活用ください。なお、このサービスは初診に関しては行っておりませんので、ご注意くださいようお願いいたします。

(電話番号)	06-6692-1201(代表)にダイヤルして
	「予約変更センター」と言ってください。
(受付時間)	午後3時～午後5時(平日のみ)
(対象診療科)	内科・呼吸器内科 消化器内科 糖尿病代謝内科 整形外科

免疫リウマチ科 皮膚科 形成外科 腎臓・高血圧内科
神経内科 脳神経外科 耳鼻咽喉・頭頸部外科

【(継) 入院治療費の概算に加え、新たに外来での検査費用の概算を

予めお知らせするサービスを始めました。】

当センターにおきましては、入院患者さんへのサポートを総合的・集約的に行う入院センター（やすらぎセンター）におきまして、ご入院申し込み時に予め標準的な治療を行った場合の概算費用をお知らせするサービスを行っています。

また、昨年、11月1日から、新たに、CT、MRI、RI、エコー検査など検査費用の概算を医療・福祉相談コーナーなどでお知らせするサービスを開始しました。

今月の催し

【(新) 第11回万代・夢寄席一玉之助の“新春太神楽”でお正月を一】
～前回初登場し、大好評を博した豊来家玉之助。天満天神繁盛亭仕込みの

おめでたい太神楽曲芸で、新しい年の福の訪れを願います！～

日 時 平成25年1月10日(木) 午後2時～

場 所 本館3階講堂

出 演 豊来家 玉之助

主 催 万代やすらぎ亭

(入場無料)

【(新) 今年も行います！「ふれあい病院探検隊」】

昨年度、大好評をはくしました「ふれあい病院探検隊」。未来の医師、看護師、薬剤師、診療X線技師、臨床検査技師、PT/OT/ST、医療事務などを目指して府内の高校1・2年生に、実際に病院の仕事を模擬体験していただくイベントです。

開催日 平成25年1月13日(日) 午前10時～午後4時

対 象 府内の高校1・2年生(先着500人)

場 所 当センター内

参加者募集 締め切りました

お問合せ (専用TEL) 06-6692-2222(午前9時～午後5時30分)

または、tanken@gh.opho.jp

(ご協力) 相愛大学、森ノ宮医療大学、大阪府立大学

【(新) 大好評!!】

相愛大学連携・外来糖尿病教室 ～知って得する! 糖尿病の付き合いかた～】

日 時 1月23日(水) 午後2時～3時30分

場 所 本館1階アトリウム

内 容 「糖尿病と心疾患」

糖尿病代謝内科 医師 片岡 隆太郎

「足を大切にしていますか？」

糖尿病認定看護師 後藤 博美

「野菜を食べよう」

栄養管理室 管理栄養士 笠井 香織

(参加無料)

【(新) 今月のすこやかセミナー】

高次脳機能障害—支援制度とリハビリテーションの役割—

日 時 1月25日(金) 午前11時～12時

場 所 本館3階保健教室

講 師 リハビリテーション科 作業療法士 池埜 弥生

(参加無料)

【(新) 第23回相愛大学連携声楽コンサート】

～ 春はニンフの美しい歌声とともにやってきた ～

日 時 1月29日(火) 午後2時～

場 所 本館3階講堂

出 演 ソプラノ 齊藤智美

メゾソプラノ 阪上真知子

ピアノ伴奏 大谷祥子

曲 目 ・冬景色(文部省唱歌)

・この道(北原白秋 作詞、山田耕筰 作曲)

・ミュージカル「サウンドミュージック」より

・サウンドオブミュージック

・エーデルワイス

・私のお気に入り

・ドレミの歌

・オペラ「フィガロの結婚」より

- ・恋とはどんなものかしら (モーツァルト)
- ・オペラ「ジャンニ・スキッキ」より
- ・私の好きなお父様 (プッチーニ)
- ・蘇州夜曲 (西条八十 作詞、服部良一 作曲)
- ・青い山脈 (西条八十 作詞、服部良一 作曲)
- ・Stand Alone (小山薫堂 作詞、久石譲 作曲)
- ・ふるさと (高野辰之 作詞、岡野卓一 作曲)

(入場無料)

【(継) 第8回病院ギャラリー企画展】

—昭和の巨人・グラフィックデザイナー 田中一光の世界—

戦後から昭和が幕を閉じるまでの期間、日本のグラフィックデザイナーの絶えずトップランナーを突っ走った田中一光。その鋭い感性で、未来を鋭くキャッチし、広告やポスターデザインに取り入れ時代を先導した姿に、多くのフォロワー達が胸を熱くし、今もなお彼の姿を追いかけている。

今回は、大阪を中心に活躍した、我が国のグラフィックデザイナーの巨匠が残したポスター作品の数々の中から、我が国の経済が絶頂期にあった大阪万博以降の作品を取り上げて時代をともにたどります。

本企画展は、大阪府江之子島文化芸術創造センターのご協力を得て実施します。

日 時 平成 24 年 12 月 25 日 (火)～平成 25 年 4 月 19 日 (金)

(午前 9 時～午後 5 時 30 分)

場 所 本館 2 階 現代美術空間 病院ギャラリー

展示作品リスト

- ① 1973 年 日本の選択 (毎日、日本研究賞論文募集、新聞広告)
- ② " 上方芸の会
- ③ " サンケイ観世能
- ④ " 演劇「探偵」(劇団四季 西武劇場)
- ⑤ " 結城 人形座公演
- ⑥ 1974 年 池坊専永展
- ⑦ " 演劇「桜の園」(チェーホフ作、劇団民藝、西武劇場、東京)
- ⑧ 1976 年 Music Today “76
- ⑨ 1977 年 Hanae Mori
- ⑩ " 曼荼羅展 1977
- ⑪ " JAPAN STYLE

- ⑫ 1979年 ゆめつづれ
- ⑬ 1981年 マルシエル・テュシャン展
- ⑭ 1982年 緑と人
- ⑮ " 草月：創造の空間展
- ⑯ " 多彩な食卓：House Food
- ⑰ 1983年 サンケイ観世能
- ⑱ 1984年 ヨーセフ・ボイス展
- ⑲ 1985年 Music Today “85
- ⑳ " 中村宗哲歴代展
- 21 " イサム・ノグチ展
- 22 1986年 Japan
- 23 " オープン 銀座セゾン劇場
- 24 " カルメンの悲劇
- 25 " チャオ・イタリア
- 26 1988年 Street
- 27 1989年 セゾン美術館
- 28 1990年 グラフィックデザインの今日
- 29 " 三宅一生展 TEN SEN MEN
- 30 1991年 CANADA ” 91
- 31 1993年 文字の演技力
- 32 1996年 人間と文字—エルトリア
- 33 " In Search of Elegance
- 34 " モリサワ フォント (A)
- 35 " New Japanese Graphics 以上 35 作品

【(予告) 第 12 回万代・夢寄席—三代目桂春団治一門会—】

日 時 平成 25 年 2 月 12 日(火) 午後 2 時～
 場 所 本館 3 階講堂
 出 演 桂 梅團治
 桂 紋四郎
 主 催 万代やすらぎ亭
 協 力 三代目桂春団治師匠を囲む会
 (入場無料)

【(予告) 第13回万代・夢寄席―平成の成長株!“桂かい枝落語会―】

日 時 平成25年3月14日(木) 午後2時～

場 所 本館3階講堂

出 演 平成の成長株!

桂 かい枝

主 催 万代やすらぎ亭

(入場無料)

Topics

【(新) やすらぎのプロムナードで秋の訪れをキャッチ―北側通路周辺―】

新年を迎え、プロムナードもすっかり春を待つ雰囲気になりました。ここしばらくは、厳しい寒さが訪れますが、寒さが厳しければ厳しいほど、春に咲く満天星ツツジを始めとする花たちの開花を待つ気持ちは高まります。春は、もう目の前にやってきています。あとしばらくの辛抱です。楽しみに春を待ちましょう。

今月のひまわりさん

各種窓口でセンターご利用のお手伝いをさせていただいている医事事務委託会社ソラスト(旧NIC)の窓口担当を紹介させていただくコーナーです。

【(新) 公費請求担当 井上さんの巻】

井上「私は、介護保険の書類を担当している井上と申します。区役所等から送られてくる書類を主治医に渡し、意見書等の記載を依頼し、少しでも早く患者さんにお手元に届くよう、スムーズかつ早く処理をさせていただき、安心して生活して頂ける様にと、日々頑張っております。

老人介護のあり方が社会では話題になっておりますが、先日80代の女性の方が相談に来られた時のことです。

「主人が、昔気質の人間で『他人の世話は受けたくない』と、人の言うことも聞かないので、私が一人で世話をしています。私も本当は入院をしなくては、いけないのですが、主人の事を考えると・・・」と涙を流されてお話されてきました。

私は、ただお話を聞くことしか出来ませんでした。でも、帰られるとき、少しほっとされたご様子で「話を聞いてくださって有難う。また、頑張れます」とおっしゃってくださいました。

その言葉は、ただ聞くことしか出来ない無力な私にとって、とても励みになり、また、今後とも頑張れる大きな力を与えてくださいました。

これからは、逆に私の言葉で誰かに勇気と気力を伝えることが出来るよう頑張りたいと思います。」

その他のお知らせ

【(継) やすらぎ通信はメルマガで！】

「やすらぎ通信」は、メルマガでも配信しております。ご希望の方は、当センターホームページからアドレスを登録していただきますようお願いいたします。なお、ホームページのご検索は、「大阪府立急性期・総合医療センター」にて可能です。

【(継) 医療費の支払いはキャッシュカードでできます！】

当センターの医療費自動精算機は、デビットカード対応となっておりますので、ほとんどの金融機関のキャッシュカードでお支払いができます。

これらの金融機関はJ-Debitに加盟していますので、キャッシュカードに自動的にデビット機能が付与されているからです。(ただし、キャッシュカードでお支払いいただいた場合は即座に口座から引き落とされることとなるため、口座に引き落とし金額以上の残高が必要ですのでご注意ください。)

このため、医療費の支払いのための現金を持たなくても、キャッシュカードさえあればお支払いが可能です。

また、引き落としの手数料は不要ですので大変便利です。是非ご利用ください。

なお、合わせて一般のクレジットカードでのお支払いもできます

当センターは、当センターが「希望の医療空間」「よろこびの医療空間」「やすらぎの医療空間」となるよう日々努力しています。